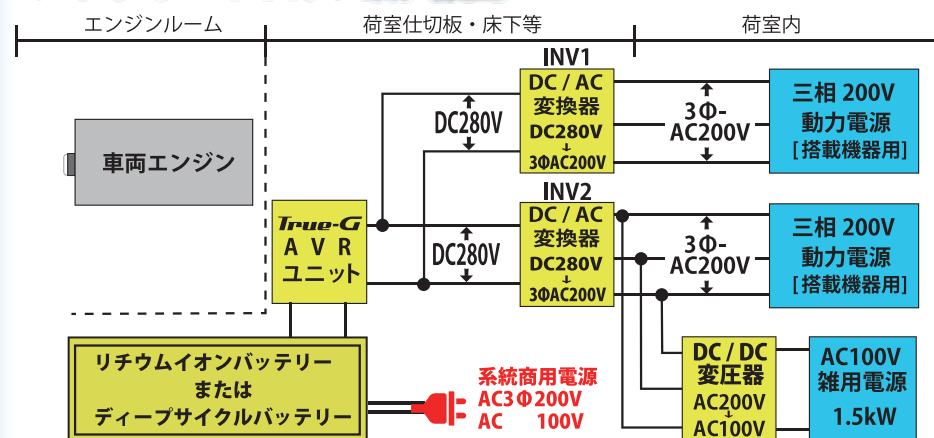


バッテリー・システム概略図



発電機レスだから導入コスト大幅削減

主な電気の流れ

系統商用電源 AC3Φ200V または AC100V で車載バッテリーに充電する事で、電力供給を行う。電力は、バッテリー容量に依存するが、短時間の運用や、系統商用電源が得られ易い場合に威力を発揮する。True-G 発電機を搭載しないため導入コストは大幅に削減できる。

荷室スペースに余裕がある場合パッケージ型発動発電機をバッテリー充電に活用する事も、安価な発電給電システムとして有効である。

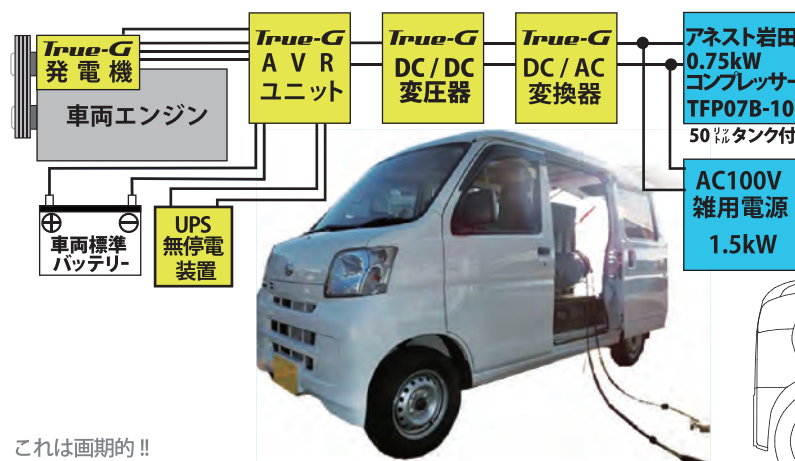
またリチウムイオンバッテリー搭載の上、付帯設備を整えれば車載バッテリーへの急速充電が可能となる。



関東地方総合テーマパーク様
バッテリーシステム地震体験車

True-G・軽自動車発電システム概略図

ダイハツ
ハイゼット・カーゴ

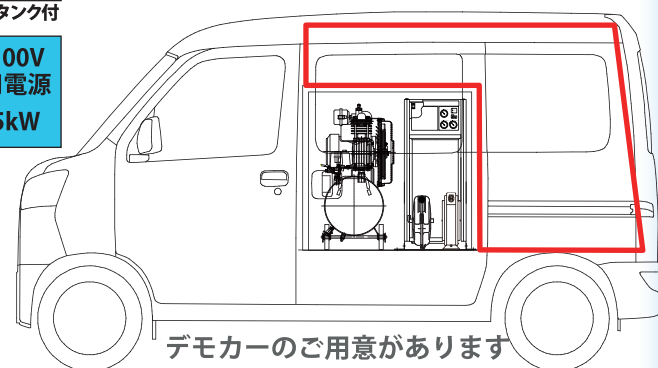


軽自動車に電気と圧縮空気!!
4名乗車時の荷室面積確保
AC100V1500Wの大電流出力

これは画期的!!

発動発電機がなくてもエアーコンプレッサー&100V 電源が使えます。

各種出張点検業務・メンテナンス業務・法人向けリース車両やカーシェアリング車両の定期点検・出張整備・タイヤ点検に



デモカーのご用意があります

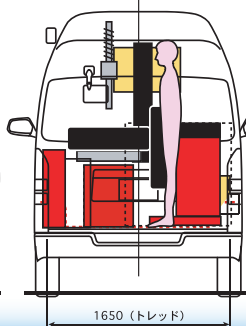
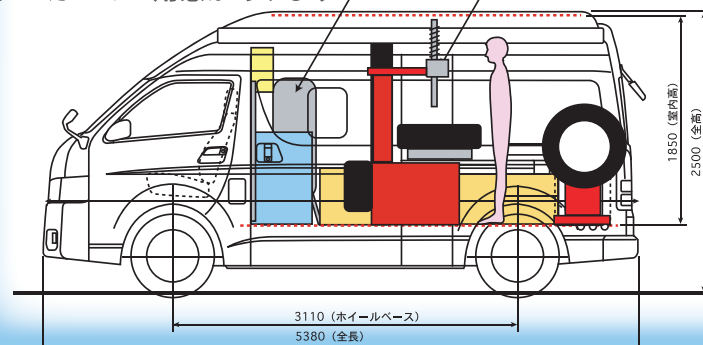
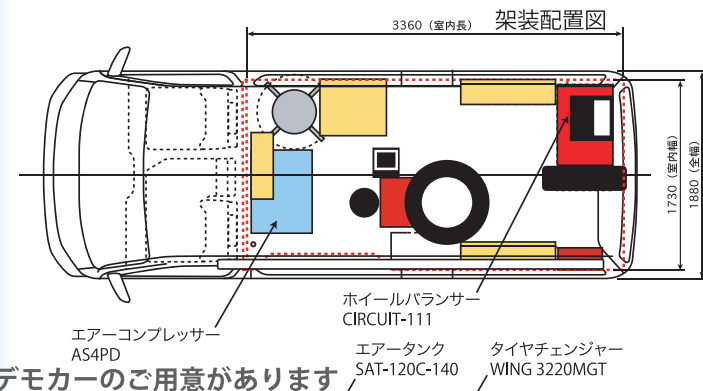
1BOX多目的出張サービス車

普通運転免許・AT限定免許完全対応

True-G・1BOX車搭載事例

表紙写真車輛

あらゆる出張業務に対応可能。車室内高 185cm で直立作業が可能です。タイヤサービスカー・オイル交換サービスカー等の作業系業務以外に現場指揮車・ドローンベース基地車・訪問健康診断車等多目的ベース。1BOX 車ならではの普通運転免許・AT限定免許に完全対応。若い人材の活躍幅を広げます。また、トラックで発生している都市部駐車確保の問題も 1BOX 車の特性を活かします。

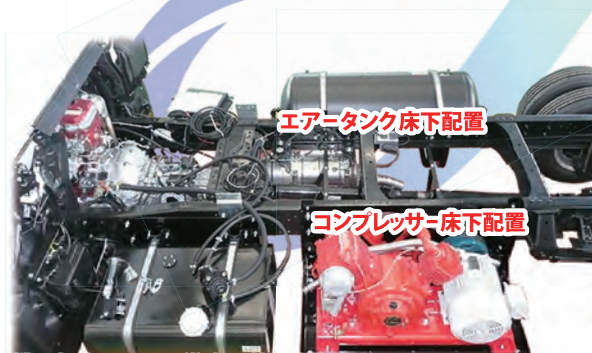


株式会社 **モビリティプラス**
TEL 075-644-6570
FAX 075-644-4702
〒612-8251
京都市伏見区横大路菅本2-19
BOSS ビルディング4階
<http://mobility-p.com/>

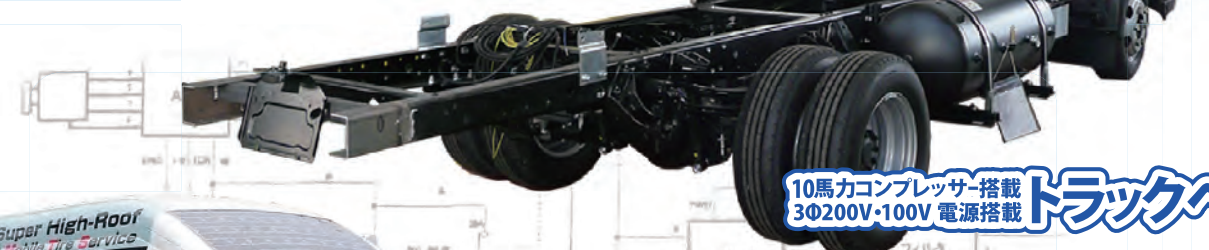
HYBRID SYSTEM
True-G

車両発電システム・バリエーション

その可能性は無限大



機器類床下配置の徹底で荷室床面は
すべて御社業務にご利用いただけます



10馬力コンプレッサー搭載
3Φ200V・100V 電源搭載 **トラックベース**



5馬力コンプレッサー搭載
3Φ200V・100V 電源搭載 **ハイエースベース**

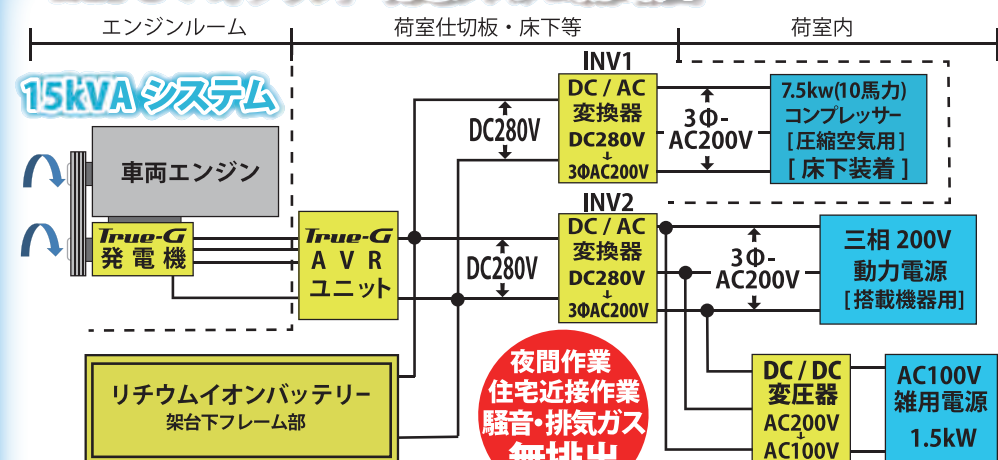


1馬力コンプレッサー搭載
100V・1500W 電源搭載 **軽バンベース**

Mobility Plus

True-G 荷室をすべて自由に使えることは当たり前。+αが勝負です。

True-G・ハイブリッド・発電システム概略図



主な電気の流れ

出発時、メイン電源を ON にし、走行中に [True-G 発電機] で発電された電気を、リチウムイオンバッテリーに蓄電すると同時に、現場到着後直ちに作業開始できるよう、エアーコンプレッサーを稼働させ、エアータンクに圧縮空気を溜める。

現場到着時にはエンジンを停止させ、アイドリングストップ状態で作業を実施する。現場作業量が多く、蓄電量で電気が不足する場合は、エンジンを始動させ発電させ作業を完了させる。

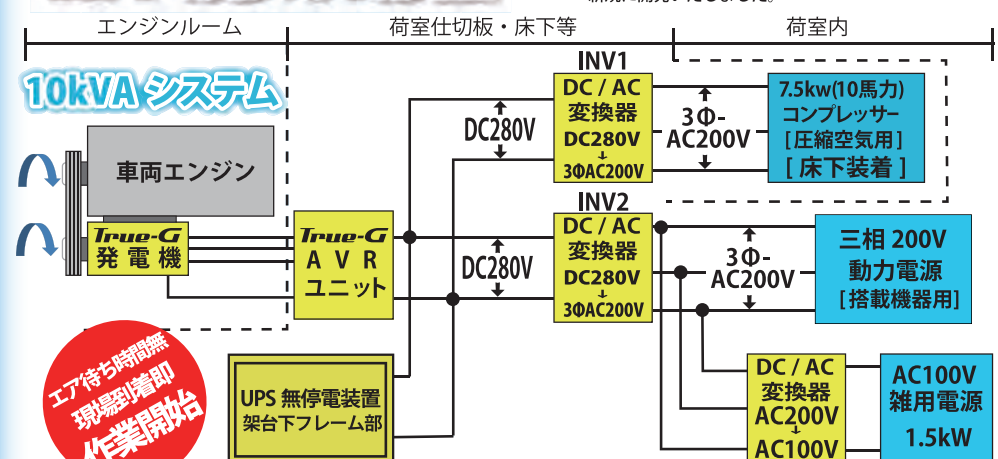
作業終了後、次現場への走行中に、リチウムイオンバッテリーの充電を行う。(設計時 30 ~ 60 分走行で、蓄電容量 80% に充電できる発電機を選択) エアーコンプレッサーは、タンク内設定空気圧に達すると自動的に停止する (自動断続運転)。



HMG 発電機 寸法概略 直径 160mm 長さ 244mm 重量 18kg

エンジンルームデッドスペースに発電機を配置

True-G・発電システム概略図



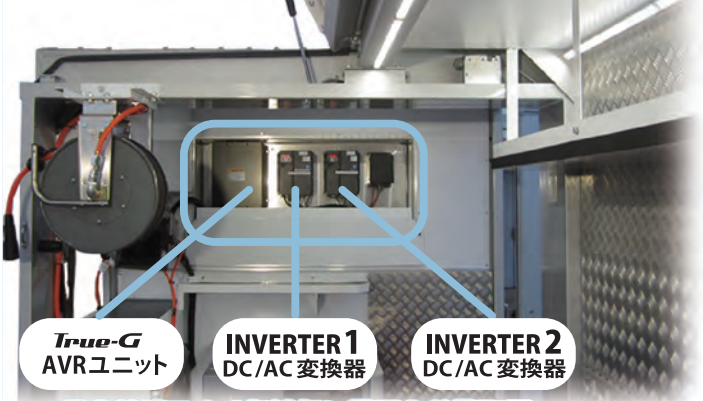
主な電気の流れ

出発時、メイン電源を ON にし、走行中に [True-G 発電機] で発電された電気で、エアーコンプレッサーを動かしてエアータンクに圧縮空気を溜める。コンプレッサーはタンク内設定空気圧に達すると自動的に停止する。

現場到着後の作業時は、エンジン掛けたまの状態で、発電させながら作業を実施する。作業の際に搭載機器の過負荷により、過大電流が流れ、一瞬の使用電力量 > 発電電力量の瞬間停電からのシステムダウンを UPS 無停電装置で防止する。エアーコンプレッサーは、次現場到着後直ちに作業開始できるよう ON を保つ。

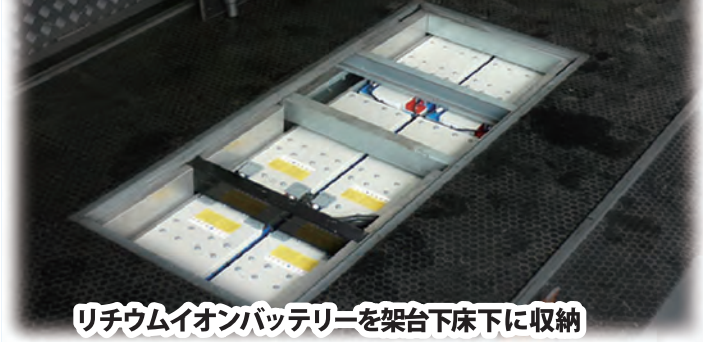
走行中安全に圧縮空気生成可能

True-Gシステムは、運転席で
システム電源・コンプレッサー電源の操作可能



荷室前端アオリ収納部に機器を分散配置

発電システムが荷室を占有しません



リチウムイオンバッテリーを架台下床下に収納

オプションのご案内

プラグイン・システム

自社工場隣接駐車や、出先で商用系統電源を得られる場合、車載発電機を動作させることなく、コンセントから車両に電気を送り車載機器類を使用できます。持てる設備を最大に活用する…モビリティプラスのシステム開発思想の延長線上にあるオプションです。

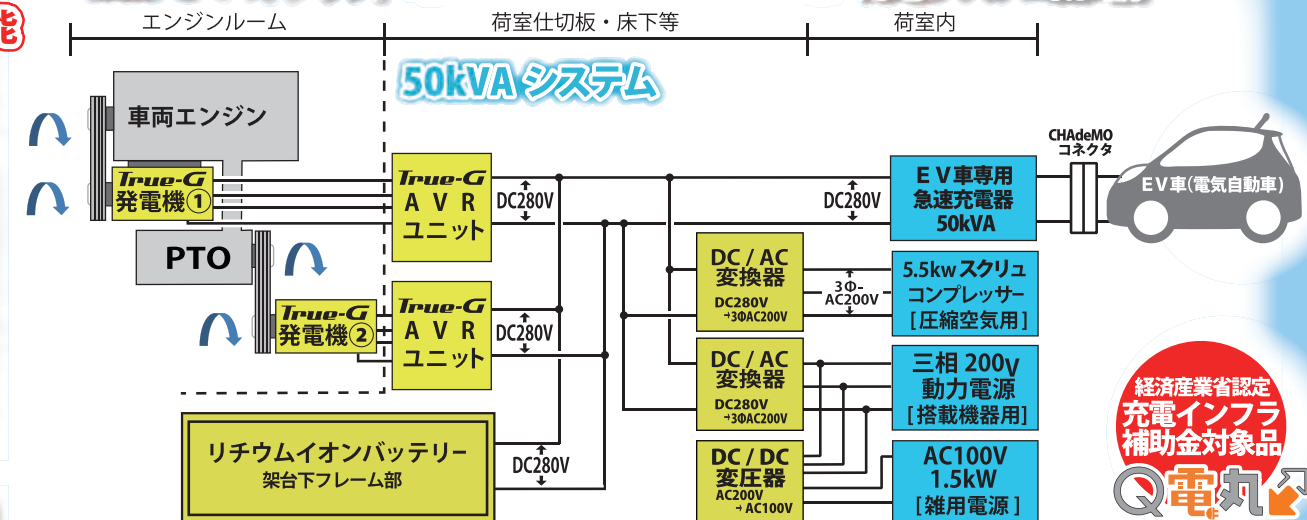
- ・UPS 仕様…3 Φ200V から電源を取って機器を稼働させます。車載発電システムとはコンセント系統商用電源に接続すれば自動で切り替ります。
- ・リチウムイオンバッテリー仕様…3 Φ200V から電源を取り機器駆動させるプラグイン機能に加え、CHAdemo 規格コネクタを追加することにより、急速充電設備を工場に設置する事や、自動車ディーラーをはじめ、コンビニなどに設置されている充電設備により急速充電に対応できます。
- ・少し先の話…プラグインの逆「送電」を、開発中の電気の「V to X」(ヴィークルツウホーム・オフィス・ストア・ファクトリー等のなにか) つまり車載電源を大規模災害等の停電時に建物等に送電し、会社業務や日常生活への支障を軽減させ BCP (事業継続計画) の中核へと進化させようとしています。

定期保守・メンテナンス

使用状況および稼働時間において、適切と思われる時期に定期保守をお勧めいたします。

- ・ベルト交換 (1 年毎) … 発電用ベルト交換
 - ・定期保守 A (3 ~ 4 年) … True-G 発電機本体・発電用ベルト・アイドルプーリー等、主に発電機廻り保守
 - ・定期保守 B (5 ~ 6 年) … AVR・インバーター等、主に制御装置保守
 - ・UPS 無停電装置内蔵バッテリー交換 (3 ~ 4 年) … UPS 内蔵バッテリー交換
- 上記のお勧め定期保守期間は目安です。ご利用方法、システム稼働時間により期間は大きく変動いたします。
- 当社販売システムは、個々のご利用状況をヒアリングの上設計するオーダーメイドの為、交換部品が各々異なります。定期保守につきまして、各々のシステムに最適なご提案をお見積らせていただきます。費用の予算化が行いやすいメンテナンス契約方式もごございます。

True-G・ハイブリッド電気自動車用急速充電車・発電システム概略図



50kVAの大電力を得られても荷室はすべて自由に活用可能

主な電気の流れ

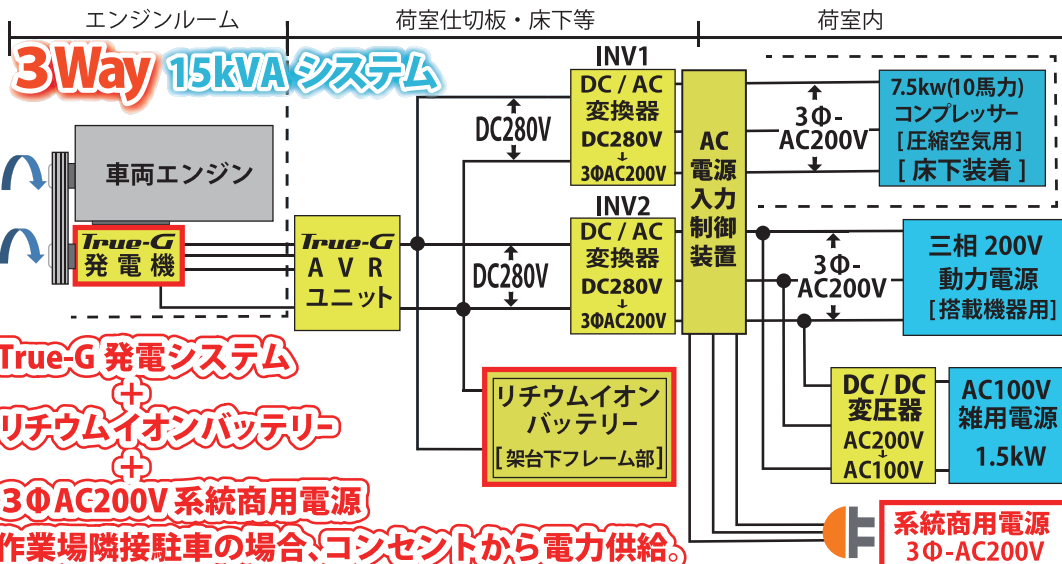
E V 車電欠救援の場合、走行中に [True-G 発電機①] で発電された電気をリチウムイオンバッテリーに蓄電のため、電源を ON にする。救援現場到着後、車を停車させ P T O を作動、「True-G 発電機②」を稼働させる。急速充電時には、発電機①・発電機②及びリチウムイオンバッテリーの 3 電源から給電し最大 50kVA の高出力を得る。E V 車充電作業以外は、現場到着後直ちに作業開始できるよう [True-G 発電機①] を ON にし、エアーコンプレッサーを作動させ、エアータンクに高圧空気を生成する。現場到着時にはエンジンを停止させ、アイドリングストップ状態で作業を実施する。

作業量過多のため、蓄電量で電気が不足する場合は、エンジンを始動させ発電させ作業を完了させる。作業終了後、次現場への走行中に、リチウムイオンバッテリーの充電を行う。(設計時 30 ~ 60 分走行で、蓄電容量 80% に充電できる発電機を選択) エアーコンプレッサーは、次現場到着後、直ちに作業開始できるよう常時 ON を保つ。コンプレッサーは、エアータンク内が設定空気圧に達すると自動的に停止する (自動断続)

独自の車載発電システム



電源のない出張先の現場において、トラックの走行用エンジンを活用して、三相交流 200V・単相 100V 電源が得られる独自の車両発電システムです。



True-G 発電システム
+
リチウムイオンバッテリー
+
3ΦAC200V 系統商用電源
作業場隣接駐車の場合、コンセントから電力供給。
3Way 給電で出張作業車を、出先はもちろん自社工場でも活用。

主な電気の流れ

出張サービス時は、True-G 発電システムにより発電・蓄電・給電を行い、アイドリング・ストップ作業が可能。さらにプラグイン 3 way 電源システムにより、工場隣接駐車時には、系統商用電源 AC 3 Φ200V で、電力供給を行う。作業場所を選ばず、常に最適な電源を活用し、搭載機器の遊休時間を可能な限り削減する事で高効率な運用が可能。